

2023年6月9日(第3492号) 週刊読者人

### 山下 尚一著

シヨアあるいは破滅のリズム エポック1:2  
現代思想の視角

本書はクロード・ランスマン監督の映像作品『シヨア』を全編にわたる詳細に、しかも、発表以来この間約30数年に出された世界の多数の研究を踏まえて批判的に検討した優れた作品である。大学の「現代思想」講義録を二巻本に整理編集したものである。受講生は歴史の真実認識の幸福をかみしめたであろう。各章は20分ほどのひとまとまりの映像の分析で構成されている。殺戮に加担させられる元「ユダヤ人特別労働班員」の被害者、隠し撮りでしか語らない収容所監視SS隊員など加害者、さらには収容所周辺のポーランド人傍観者などが登場人物である。彼らの語りと表情を解きほぐし、立場の違いをそれぞれ意識し、態度にきめ細かな目配りがなされている。あえていくつか印象的な章のタイトルを示せば、「死体を埋めて掘り出す」、「死

のベルトコンベアー」、「ガス室のドアを開けるとき」、「みずからガス室に入る」といったところである。解説はおおむね平明である。学生・市民が『シヨア』をみて受けるショックな場面の



シヨア  
あるいは  
破滅のリズム  
現代思想の視角  
四六判・①286頁②288頁  
各2970円  
ナカニシヤ出版  
①978-4-7795-1707-5  
②978-4-7795-1711-2  
TEL. 075-723-0111

## 絶滅の行為に巻き込まれている

ホロコーストを認識する貴重な補助教材

永岑 三千輝

れは、巨大な悲劇が「私」たちを巻き込んでいくもの」ととらえる。「私」たちはいつの間にか絶滅の行為に巻き込まれている」という立場である。シヨア、ホロコーストはたんに遠く過ぎ去った悲劇ではなく、実は、現在進行形のもの、潜在的可能性でもあるという見地である。核攻撃の危険をちらつかせる大國ロシア

で、実際には「沈黙のうち」にそれを築めることに等しい、「アウシュヴィッツを讀めることを意味する」と。何百万人ものユダヤ人が絶滅収容所(トレブリンカ、ベウゼッツ、ソビボル、そしてアウシュヴィッツ)でガス殺された。生還者はわずか一人か二人。それを見つけた、インタビュールしたこと、これは偉大な発見であり、世界への貢献である。ごく少数の生還者証人に語らせ、過酷な現実を再現させたことは、実はシヨアの具体像を描きだすものであった。戦

によるウクライナ侵略戦争の現実、まさに著者のこの見地を証明しているかのようである。この戦争が世界的な影響を及ぼし、世界の人々を何らかの形で「巻き込んで」いつているのではない。ランスマンによればシヨアは「理解不可能なもの」である。これに対するイタリアの思想家アカンベンの説得的批判が紹介されている。それは婉曲語法、遠回しの表現

数々を咀嚼し、ホロコースト、すなわちナチス第三帝国によるユダヤ人大量殺害の実態をリアルに認識する貴重な補助教材として生命力を持つことになろう。著者はシヨアを「ひとつのリズム」とみる。そ

後数十年、多くの人々に忘却の彼方から悲劇を想起させた。まったく無知の人びとにガス殺をめぐる人間関係の諸側面を映像で具体的に理解させた。だからこそ、世界の人々に強烈な印象を与え、深い感動を刻み込んだ。しかし、それほど優れた作品であっても、現

はまさしく絶滅のこと、ホロコースト、シヨアの「こと」というのは論争史の批判的検討抜きの規定というべきであろう。ながみね・みちてる(横浜市立大学名誉教授・ドイツ現代史)

### 哲学)

★かしま・しげるの作家・フランス文学者。共立女子大学、明治大学教

授などを歴任。著書に『馬車が買いたい』『子どもより古書が大事と思いたい』など。一九四九年生。

授などを歴任。著書に『馬車が買いたい』『子どもより古書が大事と思いたい』など。一九四九年生。

★やました・しょういち(駿河台大学グローバル教育センター准教授・フランス哲学・美学。著書に『ゼセル・フルレ研究』など。一九七九年生。

